

「お前のお父さん、アレだってなあ——」

Greatchain

January 31, 2023

我々は健康のために爽やかな空気を必要としている。淀んだ不健全な空気が、重くあたりに漂っていれば、病気でもないのに、人は健康を害して死ぬだろう。

子どもが喧嘩をしていると想像していただきたい。子供が健全な、爽やかな空気を吸っている間は、少々怪我をするくらいの喧嘩をしても、大騒ぎをするほどのことではない。しかし、なかに一人、上記のようなことを言う、知能犯的な子供がいたとしたら、子どもとは言え、我々は彼を許すことができない。しかしその子が、我々が太刀打ちできないような、成績優秀で知識豊富な子だとしたら、どうか？ しかもそれだけでなく、同じようなことを言う子どもが、あちこちにいるとしたら、どうか？ 我々は自信をなくし、ただ不快な日々を送るだろう。

「〈アレ〉とは何だ？」——「そんなことは言えない、自分で調べてみろ」

そう言われた子どもは、父親を信じながらも「もしや」と思いつつ、おそらく生涯、暗い人生を送ることもありうる。一生、心が晴れないような精神状態を作り出した者は、犯罪者である。しかし、それを言った当人は、そんなことは忘れているか、大して罪の意識はもっていないだろう。そしてこの成績優秀の腐った子どもは、間違いなく出世するだろう。

現在、我々が生きている、嫌な、暗い閉塞状態のような世界を要約すると、そのような感じであろう。世界を覆う、犯罪的でやり場のない雰囲気、解消されることなく続けば、この社会に犯罪者と自殺者が溢れるのは、間違いない。現在そうになっている。そしてこれを創り出す最も犯罪的な存在は、直接的にはマスメディア、それに悪質な党派やロビイストである。この世界は、ほとんどの人々が無知でそれを恥じ、噂を信じ、アイツラを憎んで生きている。唯物論エセ科学の信者が、その劣等感と優越感の典型である。

28日付のRTニュースに、「**死亡 14、負傷 24、ウクライナによる市民病院攻撃で——ロシア防衛省**」と出ている。このようなニュースには、誤認も誤解もあり得るだろう。しかしロシアは極力それを避けている。なぜなら、もし虚偽を報じたら、プロパガンダが常態である欧米と区別がつかず、同じ穴のムジナになるからである。わが国のニュースはこれを、

ロシアの攻撃であるかのように報道した。「ロシアがやったのか？」と訊けば、彼らはきつと「それは知らない、でもわかるだろう」などと言うだろう。これは「お前のお父さん、アレだってなあ」というのと、同じ悪質な詐術である。

しかし、そういうことを続けていけば、やがては、騙され続けていた者たちから、何倍もの倍返しが返ってくるであろうことは予測できる。これについて、ロシアのある高官は自信をもって言った——「そういうことになっても我々は、アメリカを強く責める政策は取らない。」これこそ、問題を積極的に解決しようとする者の言い方ではないか。

ウソを隠し切ることのできない喜劇＝悲劇は、だいぶ前から始まっている。29日付のアレックス・ジョーンズの Infowars に、「COVID (コロナ) 犯罪が暴露される！ ファイザーが不法の〈機能獲得〉研究を認める：英国の軍事ロックダウン監視団が明かす」という記事があった。また同じ日付で「グローバリストが3次大戦をこれほど急ぐのは、人類に対する巨大な COVID 犯罪から、人の目をそらすため」と言っている。

ところで、人の不幸を喜ぶのはよくないが、現ウクライナ政府のお家騒動(?)だけは、喜ぶべきであろう。これは RT の「**キエフのパージ：何がウクライナ高官の大量辞任の原因となったのか?**」という記事 (1/26) に、詳しく説明されている。

これはかなりの人数の大物の一斉辞任だが、まずこれは、同士討ちの反乱であって、野党の反乱ではないことに注意すべきである。ゼレンスキー大統領は、反賄賂対策 (anti-corruption measures) を講ずべく努力しているが、これは文字通り身から出たサビであって、どうすることもできないのだという。これは当たり前のことであって、腐敗している者同士の信頼ということは、ありえない。野党と宗教を弾圧して私腹を肥やししながら、ウクライナの愛国者を装っている者たちの正体が、これで明らかになった。ゼレンスキーはバイデンに対しても、「早く武器を送れ、8月では間に合わない」と腹を立てている。彼ははっきりと、世界の金持ちたちに対して、これは「ビジネス・チャンス」だ、武器の供与はいくら多くても、ちゃんと割に合うのだと喚んでいる。さすがにこれでは、誰だろうと「これはまずい」と思うだろう。そしてロシアの特殊作戦は、2月完了を目途に、着々と進行している。

プーチンとロシアは、誠実でありながら戦略家でもある。NATO や欧米は、その戦略家であるところを指して、悪辣だと言っている。これは馬鹿げている。ロシアは、グローバリストから見て、悪辣に見えるだけである。プーチンは、「アメリカの一極集中はもうやめよう、時代遅れで、お互いにためにならない」と言っている。グローバリストは、「いやこの世界は旧来のアメリカ独裁、〈アメリカ例外主義〉でないとうまく行かないのだ」と言って

いる。当然、ロシアが勝利すべきである。救世主はロシアである。人々は真実に目覚めつつある。エドガー・ケイシーの予言は、予言とも言えなくなった。

そして人を騙し陥れ、人を苦しめていた者が、良心に目覚めたとき、最も苦しむのは、その人自身である。しかし同時に、開放と浄化の喜びを味わうのも、その人自身である。